

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：2019年4月15日 報告者：林 克彦、伊藤 智恵

行事種別	研究会	行事番号	190000358	
開催日	2019年4月6日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	株式会社カーク本社ビル 5F 大会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	集まれ、鉄ちゃんファミリー！			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 江南厚生病院	林 克彦		
	JA 愛知厚生連 江南厚生病院	伊藤 智恵		
講師	講演 1 鉄の摂取～体内動態について 豊橋市民病院 森下 拓磨 講演 2 鉄の体内動態～疾患について 藤田医科大学病院 西垣 亮 講演 3 鉄の測定について 株式会社シノテスト R&Dセンター 飯塚 直美			
内容	講演 1 では、鉄吸収のメカニズムや鉄の体内動態に於いて含まれる鉄がヘム鉄、非ヘム鉄で吸収率が違うこと、また吸収を妨害する物質があることなど詳しく説明があった。講演 2 では鉄代謝マーカーについて種々の貧血と絡めて説明があった。また、輸血後鉄過剰についての説明もあり、鉄が身体にどんな影響を及ぼすのか認識することができた。講演 3 は多くの模式図と共に解り易い解説で、鉄・UIBC・トランスフェリンの基礎について、代謝について、関連疾患の機序について、講演 1・2 の復習を簡潔に行った。また、鉄・UIBC の測定原理についての詳しい説明と、測定原理に関連して測定値に影響を与える薬剤やエラー要因などを事例と共に解説した。臨床検査技師は日常のルーチンでは項目測定に特化しているが、今回のように、鉄の摂取～代謝～測定、そして結果についての考察まで総合して学ぶ機会は貴重であり、今後の業務にフィードバックできる内容であった。			
参加者	総数：72名(会員68名、非会員0名、賛助会員4名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：2019年7月15日 報告者：伊藤 直之、神谷 美聡

行事種別	研究会	行事番号	190007232	
開催日	2019年7月6日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	株式会社スズケン名古屋支店 2F 会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	大丈夫？ 臨床検査技師としての脂質			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 海南病院	伊藤 直之		
	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	神谷 美聡		
講師	<p>講演 1 脂質の摂取～吸収について JA愛知厚生連 稲沢厚生病院 中島 裕人</p> <p>講演 2 いまさら聞けない脂の話 日立化成ダイアグノスティックス・システムズ株式会社 高橋 恵祐</p> <p>講演 3 動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年度版 積水メディカル株式会社 高田 真由美</p>			
内容	<p>講演 1 では脂質の基礎から摂取・吸収のメカニズムを分かりやすく説明していた。実際の食品に含まれる脂質の量や脂肪燃焼を促進する食物などの説明もあり、親しみやすい内容となっていた。講演 2 は苦手意識を持つ人も多い脂質、リポ蛋白の役割について、模式図や動画を交えながら大変理解しやすい内容の講演であった。実際の問い合わせに基づいた解説もあり、現場で必要となり得る知識を得られた。講演 3 は動脈硬化とコレステロールの疫学を復習し、動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年版の概要、変更点を解説した。脂質異常症の診断基準に LDL-C の直接法も可能となった点や管理目標値の追記等が挙げられた。また家族性高コレステロール血症の疫学や診断・治療など幅広く解説がなされ、新たな治療薬 PCSK9 阻害薬についての情報提供も行われた。脂質の摂取・吸収から病態や疾患の疫学・診断・治療まで幅広い視点で学ぶ機会となり、今後の業務に活かすポイントの多い内容であった。</p>			
参加者	総数：66名(会員56名、非会員1名、賛助会員8名、学生0名、その他1名)			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：2019年10月30日 報告者：林 克彦

行事種別	研究会	行事番号	190013880	
開催日	2019年10月20日(日)			
時間	開始口10 時00分	10時00分	終了	16時00分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	難しくない！精度管理の基礎～実践			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	JA愛知厚生連 江南厚生病院 林 克彦			
講師	<p>講演1 内部精度管理について シスメックス株式会社 高柳 稔</p> <p>講演2 精度管理に関する用語について シスメックス株式会社 相原 孝至</p> <p>講演3 外部精度管理について 愛知医科大学病院 森部 龍一 名古屋掖済会病院 岡本 明紘</p> <p>実習1 SD、CVを計算してみよう JA愛知厚生連 江南厚生病院 林 克彦</p> <p>実習2 \bar{x}-R 管理図を書いてみよう JA愛知厚生連 江南厚生病院 林 克彦</p>			
内容	<p>全体として、「新人でも理解しやすい」をコンセプトに、内部精度管理・外部精度管理・計算実習について取り上げた。冒頭で、精度管理の歴史・用語・考え方など幅広く説明を行った。内部精度管理では、色々な精度管理方法の紹介、ターゲットと管理幅の設定方法、評価方法、結果不良の場合の対応などを説明した。外部精度管理では、実際に愛臨技精度管理担当を行っている班員により、サーベイ実施のポイントや注意点、評価が良くなかった場合の対応などを解説した。実習では、SD・CVを実例を挙げて計算した。また、内部精度管理データから \bar{x}-R 管理図を作成する練習問題を行った。</p> <p>業務では、精度管理はシステム化されていることが大半であるが、今回、座学とともに紙と計算機を用いて考えることにより、その中身を理解する一助になったと思われる。法改正により、精度管理に注目が集まる中、基礎を学びなおすことは重要であり、特に新人にとっては精度管理について考える良いきっかけになったと思われる。</p>			
参加者	総数：88名(会員85名、非会員0名、賛助会員3名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	なし			

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：2019年12月25日 報告者：林 克彦

行事種別	講演会	行事番号	190017558	
開催日	2019年12月7日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	18時00分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	知ろう、認知症。～大切な人のために～			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	公立西知多総合病院	山内 昭浩		
	JA愛知厚生連 安城更生病院	岡田 元		
講師	<p>講演1 認知症ってどんな病気？ 中部大学大学院 生命健康医学研究科 教授 野田 明子</p> <p>講演2 【実習】スクリーニング検査をしてみよう 中部大学大学院 生命健康医学研究科 教授 野田 明子</p> <p>講演3 認知症の最新トピックスと認知症予防 岡山大学大学院 医歯薬総合研究科 脳神経内科学 教授 阿部 康二</p>			
内容	<p>「新人も理解し易い」をコンセプトに、講師の先生と打ち合わせをし、あまり難しい内容に逸脱しない構成で講演していただいた。</p> <p>講演1では、認知症の基礎と分類、そして評価方法について座学を行った。</p> <p>講演2では、講演1で学んだ知識に基づき、認知症診断の補助となる記入式テストや、物忘れ相談プログラムの実践を行った。</p> <p>講演3は、超高齢社会が世界を取り巻く現状や、今後ますます認知症患者が増加していくことをふまえ、主に認知症予防と治療についての内容であった(抗認知症薬、脳サプリメント、認知リハビリテーションなど)。先生は、抗認知症の食物自然成分としてプラズマローゲンに着目しており、これはムール貝などに多く含まれている。また、現在は脳のCT画像などが診断の主流であるが、将来的には血液バイオマーカーによる診断や経過観察が可能になる可能性が示唆された。</p> <p>今回の講演会により、認知症の概要や患者や家族の気持ちなどを少しでも理解できたことは、今後の人生にとって非常に意義のあることであると考えられた。</p>			
参加者	総数：68名(会員68名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	共催：生物試料分析科学会 東海北陸支部			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：2020年2月11日 報告者：森下 拓磨、神谷 美聡

行事種別	研究会	行事番号	190030553	
開催日	2020年2月1日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	株式会社スズケン名古屋支店 2F 会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	令和元年度愛臨技精度管理報告			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	豊橋市民病院	森下 拓磨		
	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	神谷 美聡		
講師	講演 1 臨床化学部門 精度管理報告 愛知医科大学病院	森部 龍一		
	講演 2 免疫血清部門 精度管理報告 名古屋掖済会病院	岡本 明紘		
	講演 3 がんと腫瘍マーカー アボットジャパン合同会社 中日本営業部 テクニカルスペシャリスト	櫻井 崇		
内容	講演 1 では臨床化学部門の精度管理調査報告がなされた。全項目について例年と同水準でよく収束していたこと、JCCLS 共用基準範囲の採用施設が増加していることが報告された。今年度より評価幅を変更したドライケミストリー法について、原理やウェット法との違いも解説された。講演 2 は免疫血清部門の精度管理調査報告がなされた。法改正の影響から参加施設が漸増しているが、例年と同水準であったことが報告された。ただし、C,D 評価の原因として人為的なエラーが散見されたため注意喚起がなされた。講演 3 ではがんの基礎的なことから死因別死亡率や5年相対生存率などの疫学や検査法について解説した。続いて腫瘍マーカーの種類や特徴、症例に応じた継時的変化など幅広く解説がなされ、また新規の腫瘍マーカーである HE4 についての情報提供も行われた。HE4 は卵巣癌に特異性が高く、CA125 とは相関しないため組合せることで感度も特異度も高まること、さらに閉経情報も合わせた ROMA 値からは上皮性卵巣悪腫瘍の推定に使用されることが分かった。今後の新たな腫瘍マーカーの動向にも注目していきたい。			
参加者	総数：65名(会員59名、非会員0名、賛助会員6名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	なし			